

令和6年度第1回京丹後市総合計画審議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年8月27日(火)午後4時30分～午後7時00分
- 2 開催場所 峰山総合福祉センター コミュニティホール
- 3 出席者 <審議会委員>

杉岡 秀紀委員、 松宮 とも恵委員、 中村 俊彦委員、 中川 正樹委員、
田茂井 勇人委員、 平田 勝彦委員、 西途 陽子委員、 吉岡 光義委員、
藤井 美枝子委員、 今津 正史委員、 小谷 順一委員、 角田 吉高委員、
田中 良尚委員、 上田 美知子委員、 川口 勝彦委員、 岡本 美香委員、
味田 佳子委員、 和田 直子委員、 西原 肇委員、 阿辻凜太郎委員、
谷 清子委員、 中村 心児委員、 大槻 美穂子委員、 岡本 竜保委員、
上羽 柚夕委員、 大島 舞歌委員、 井藤 湊都委員

<アドバイザー>

村上 章アドバイザー

<委員随行者>

安田 楓氏、 室川 幸成氏

<事務局>

市長公室長 引野 雅文、 政策調整監 川口 誠彦、
市長公室 政策企画課長 松田 吉正、 政策企画課 課長補佐 井上 和也、
政策企画課 係長 北尻 光、 政策企画課 主任 上田 雅也

欠席者 池田 満委員、 山崎 高雄委員、 岡 眞子委員(以上3名)

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 委員委嘱
- (3) 市長あいさつ
- (4) 委員紹介

(5) 会長及び副会長の選任

(6) 諮問

(7) 議題

ア 第3次京丹後市総合計画の策定について

イ 総合計画及び総合戦略の進捗状況について

ウ 意見交換

(8) その他

(9) 閉会

5 公開又は非公開の別 公開

6 傍聴人 2人

7 要旨 下記のとおり

(1) 開会

(2) 委員委嘱

出席者

- ・ 委嘱を受ける前に、受けるか受けないかの確認も含めて確認しておきたいことがある。まず、事前配布の資料を確認した中で、自分の思いと違う部分があったが、本日の会議では、事務局の提案に対して反対意見も含めて意見を言う場はあるか。また、意見を言うだけで、聞いたという事実を作って終わりか。
- ・ 今回当て職で出席しており、出身団体の意見を多くいうが、否定的な意見を言うことで、団体に対して不利益を被るようなことにならないか。

事務局

- ・ 送付した資料も含めて、主に事務局からの説明が中心となるが、なるべく全員の委員からまちづくりに関しての意見を頂戴したいと思っており、意見交換の時間を設けている。
- ・ 全てのご意見は、今後の計画づくりに生かしていきたいという風に思っているのので、そういう視点でご意見いただければありがたい。

市長

- ・ 不利益を被るようなことは無いので、自由にご意見いただきたい。

出席者

- ・ 反対意見を言う機会があるということで承知した。

➤ 委員を代表して、京都府立清新高高等学校 井藤湊都氏へ委嘱通知書を交付

(3) 市長あいさつ

- ・ 今年の春で合併して20年が経過をしたが、この間は新市建設計画に基づき、2回にわたる10年計画の総合計画もそれに沿って市民の皆さんを中心にこのまちづくりを進めてきた。
- ・ 1つとして、交通基盤、産業基盤、教育基盤など総合的な基盤づくりをしてきた。3年前後で山陰近畿自動車道が、市内最大の商業集積地域近辺に直接道路が入っているような状況を迎える。
- ・ 交流の大動脈となるようなインフラを活用し、内外の活力を運んでくることを展望したまちづくりを描いていくことができる時代に入ってきている。これを活かし、こども館や図書館機能等、都市拠点施設の計画づくりが始まっているとともに、網野庁舎の跡地活用した地域拠点づくりも始まっている。
- ・ 最終処分場の建設や生活に欠かせない施設の更新など様々な課題がある中で、自主財源の確保も含めて総合的な財政基盤の充実を図りながら、内外の民間の方と協力しながら、まちづくりを進めていく必要がある。
- ・ 今の時代は、京丹後には追い風だと思っている。命や安全安心、自然環境、人と人との繋がりなどの社会的な関心、価値観が一層高まってきていると感じる中でこれらが様々

な形で宝の原石として京丹後にはあると思っている。

- ・ この時代の追い風を持続的に活用していくために、京丹後の特色を生かすとともに、SDGs、デジタル化、あるいはウェルビーイングといった視点を取り入れ、1人1人の幸せ、幸福というものをまちづくりの中心に置いていこうと考えている。
- ・ 大勢の内外の皆さんと一緒に、生活の現場の中からまちづくりを進めていくことこそが、活力を持続可能にしていき、主体的に発展していく上で重要になってくると思う。

(4) 委員紹介

- ・ 委員名簿に則り、事務局より紹介

(5) 会長及び副会長の選任

- ・ 委員互選により、下記のとおり選任
 - 会長 上羽委員（京都府立丹後緑風高校）
 - 副会長 杉岡委員（福知山公立大学）
 - 副会長 味田委員（NPO 法人エコネット丹後）
- ・ 会長については、今後の将来を見据えたまちづくりのための総合的な計画を審議するという本審議会の趣旨も踏まえ、本市の未来を中心になって担っていただく人材として高校生を代表し、丹後緑風高校の上羽委員を提案。
- ・ 副会長については、杉岡委員は、現在並行して審議を進めている「本市の目指すべき将来のまちの姿を考える」まちづくり委員会で会長を務めており、その委員会での意見も総合計画に反映いただくことに加え、豊富な知見・経験を元に、会長の議事の進行、意見のとりまとめ等を補い、会議の円滑な進行を補佐する役割として提案。
- ・ また、味田委員については、本審議会の前会長であり、これまでの審議会との連続性や、会長経験者として、会長の議事進行等を補佐していただくため提案。

(6) 諮問

- ・ 市長から会長へ諮問書（写し）のとおり、諮問

(7) 議題ア 第3次京丹後市総合計画の策定について

- ・ 資料1に基づき、事務局から説明
- ・ 質問なし

(7) 議題イ 総合計画及び総合戦略の進捗状況について

- ・ 資料2、資料3に基づき、事務局から説明

委員

- ・ 2点、違和感のある部分がある。1点目は、総合計画の中で「幸福」という言葉が出てくるが、幸福というのは個人がそれぞれ感じるものであり、それを行政に介入してもらいたくないため、私の意見としては計画から「幸福」という言葉を削除してほしい。

- ・ 2点目は、総合計画の中で「かせぐ」という言葉を行政が使うことに違和感がある。行政が稼ぐのではなく、民間事業者が稼ぐための制度、システムを整えるものであると考える。行政の基本的な仕事は富の再分配なので、稼ぐことを前面に出すべきではないと、高年齢者や障害者などの稼げない人たちはこのまちにおれないということになってしまう。稼がない人に支援していくのが行政の役目じゃないかと考えているため、削除してほしい。

事務局

- ・ こういった様々な意見があると思うので、頂いたご意見を参考にしながら最終的に計画案をまとめていこうと思っている。

まず、「幸福」については、市の最高規範である「まちづくり基本条例」の中で、議会の議決も経て、第5条で「誰もが幸福をますます実感できる市民総幸福のまちづくり」と明記され、位置づけられている。

こういったことを根拠としながら、この総合計画の中でも幸福、幸せということを掲げているもの。

「稼ぐ」については、行政が稼ぐということだけではなく、どちらかという地域経済を成長させていくという意味合いでとらえていただければありがたい。産業や地域経済を成長させていくことがまちの発展に繋がると考えている。また、ふるさと納税を活用して、財源を確保するという意味合いも含めている。

委員

- ・ そういうことであれば、「稼ぐ」という言葉を違った言葉に変えてほしい。まちが稼ぐことに一生懸命になって、品格が損なわれるのではないかと感じる。

先日、講演会で「お金というのはある程度までは幸福度を保証するが、一定以上はお金よりも大切なものがある」と聞いた。これが、京丹後市が目指す方向だなという風に思う。

副会長

- ・ 「幸福」について補足させていただく。ブータンが国民総幸福を目指しようとしたことが契機となって、お金だけの指標じゃなくて、世界レベルでお金以外の「生まれてよかった」「この街で過ごせてよかった」などを指標として考える動きが出ている。

なお、これまでも「住民福祉の増進」という言葉で、幸福という言葉について触れている。福祉の福も祉も、「幸せ」という意味である。私は違和感を覚えないが、確かに個人の感覚的な部分なので、行政の指標として誤解を生んでしまうかもしれない。

稼ぐという言葉も、そこだけ切り取って考えると誤解しやすい言葉かもしれないので、表現の仕方を考えたり、十分な説明が必要な部分かもしれない。

委員

- ・ 現在、京丹後市は消滅可能性自治体と言われている中で、なぜ人口が増えるような発想が出るのか。人口ビジョンを見直してほしい。

また、庁舎整備の計画は、総合計画の中で書かれているのか。

事務局

- ・ 施策 30 の ICT 等を活用した効率的、効果的な行財政運営という部分で記載している。

総括資料にも、京丹後市庁舎整備検討委員会で調査整備の方向性を検討し、京丹後市役所本庁機能集約化基本方針に基づく庁舎整備の答申を受けたといったことを書いている。

委員

- ・ 総合計画の上位計画はあるのか。中山市長のマニフェスト、公約を私は知らないが、計画に記載されていないようなことが実施されていくことは問題と感じる。

副会長

- ・ 総合計画より上の計画は、無い。総合計画では大きな方向性を示して、詳細については、個別の計画で作る。

また、「消滅可能性自治体」についても、誤解を招くような言葉だと考えている。京丹後市が 2040 年、2050 年に消滅すると言われてたらそんなことは無い。ただし、このまあいってしまうと 2050 年に、57.3%の女性が減少するという事実があるので、それを踏まえて右肩上がりというよりは少し右肩下がりでのグラフに修正されており、4 万数千人を目指していくということになっていると思う。

(7) 議題ウ 意見交換

委員

- ・ 以前から、この審議会の委員をしているが、総合計画等が分かりづらいついていた。今回の事務局からの提案で、体系ごとに見直して一体化、スリム化を図って、分かりやすくするというのは本当に良いことだと思う。

併せて、進捗を図るための KPI についても、適切な KPI を設定しないと間違った目標を一生懸命追いかけても意味が無いので、しっかりと見直しを行いながら、設定してほしい。

委員

- ・ QR コードを使わないと全体が見ることができないような、総合計画にはしてはいけない。すべて計画の中で掲載するようにすべきである。また、カタカナなどはできるだけ少なくして、高齢者でも分かるようにしてほしい。

委員

- ・ 目標値・KPI の進捗について、私も観光公社として出席させていただいているが、コロナ禍の影響で観光関係の落ち込みを実感している。それ以外にも、参考資料 5・6 をみている中で「防災」「健康医療」「ゴミ」「脱炭素」「住環境」「支え合い」「福祉」の部分が、目標達成が非常に厳しい状況だと見てとれる。

状況を分析して、要因をしっかりと究明して次に生かしていく必要がある。また、これらの分析結果を分かりやすくまとめたような資料を作成して、視える化、表現していただくとありがたい。

健康長寿のまちなので多様性のあるまちとして、文字の表現も何パターンか作成するなど、子どもから高齢者まで誰でもわかりやすい、総合計画にしてほしい。

委員

- ・ 今回、初めて総合計画というのを見たが、この審議会に出席して初めて見たという事実が京丹後市民としてどうなんだろうかと疑問に思った。義務教育の過程の中でも触れられるように、小中学生向けのものも作っていただきたいと感じた。

人口は維持するだけでも精いっぱいといった話があったが、自分が高齢者になった時とか将来的には人口が増えていっている魅力的な京丹後市であってほしいと願っている。

また、「かせぐ」という言葉については、大切だし、いい言葉と思っている。京丹後市で生活していく中で、このまちはお金がないのかなどとってしまう場面が多くあるが、みんなが稼ごうという意識することで外から市内にお金が入ってきて、まちが活性化していくのではないかと思う。

委員

- ・ 民間で子育て支援を行っている団体としての意見をさせていただく。

部分的な話となってしまう、施策 25 の「産後ケア事業」について、令和 5 年度実績が 4 人というのは非常に少ない。産後のお母さんは本当にストレスが溜まって、子育て放棄したくなるような方もたくさんいる中で、利用できるのが多胎妊婦や精神的にマイナスなものを持っている人に限られている。市の財政的に厳しいかもしれないが、市内での発信力を上げるなど、多くの方の利用促進を図るべきではないかと思っている。

京丹後市は、他の市町に比べて子育て支援の点で民間も含めて、小さな支援センターやサロンなどが充実してきている中で、大きな箱モノ、施設が本当に必要なのかと疑問に思っているので、機能が重複する施設を作らないなど考えながら進めていってほしい。

はは笑みプロジェクトで市長との面談をし、子育て支援策を充実させていただくような事例もあり、感謝している。

事務局

- ・ 公共施設の整備については、重複するような機能を持つ施設を様々な場所に作る必要はないと考えている。

都市拠点、地域拠点というような位置づけで、旧町、各地域の振興を図っていくために、地域の皆さんの意見をしっかりと聴きながら進めていくことが大事だと考えている。

委員

- ・ 私も高校生で、総合計画について今回初めて触れさせていただいたが、やはり分かりづらいというのが最初の印象である。イラストを入れるなど、若者にも分かるような総合計画というのができればよい。

委員

- ・ 働く者の視点で、意見させていただく。友人なんかも子どもに対して、ここには残らないほうが良いなどの発言をするようだが、そういったことを言わないまちにしていかなければならない。

商工業や雇用の分野で、色んな策を打って多くの人を抱えられるような企業を育てようということだと思うが、一方で労働者側の視点で、各企業の労働基準法の順守やパワーハラ（パワーハラスメント）について、企業ごとに対応するのではなく、まちを上げてそういったことに取り組めるような支援策も必要だと考えている。

人口減少していくことが想定される中で、各企業を維持していこうと考えたときに、外

国人の受け入れというものも考える必要があるため、そのサポートも踏まえて計画策定の中で考えてほしい。

副会長

- ・ 前回計画策定を行った10年前にはカスハラ（カスタマーハラスメント）という言葉もなかったと思う。伊根町では、カスハラ対策として、名札を苗字しか表示していない。また、例えば亀岡市のようにカスハラに関する条例を設けているところもある。

アドバイザー

- ・ 京都府の総合計画も1本化しているといった話もあったが、今回提案いただいた4年間の総合計画の中でも基本構想のように、20年といった長期的な視点でどのようなまちにしたいのかといった議論も並行して行っていく必要がある。

副会長

- ・ 半年間という短期間で作る総合計画になるので、市民の声をしっかり聴いてほしい
良い総合計画ができたとしても、知られていなければ意味が無いので、小学生・中学生や、お母さんたちにも分かりやすい計画、手に取ってもらえるような仕掛けを作っていければよい。

副会長

- ・ 細かい数値目標の達成だけに囚われて、計画全体として目指していることが達成できているかを見失わないように注意していくべきである。

(8) その他

事務局

- ・ 次回審議会は、令和6年9月27日（金） 16時30分から開催
- ・ 場所は、京丹後市役所峰山庁舎 201 会議室

(9) 閉会